

グラフでみる加工食品の 生産・販売、外食等の指標



目 次

<グラフでみる生産販売統計>

1. 加工食品の生産動向
2. 食品卸売業・食品小売業
3. 外食産業
4. 食料品の物価

<今月のトピック>

- ・家計調査からみた消費者購買行動の変化



1. 加工食品の生産動向

食品需給研究センターでは、食品製造業の月次生産動向について、調査・分析業務（農林水産省「食品産業動態調査」）として実施しています。

ここでは、加工食品の品目別の生産動向（増減率、速報値）についてとりあげます。

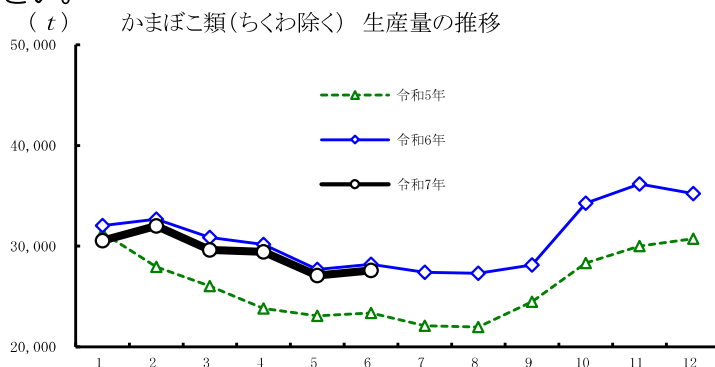
なお、詳細は、<https://www.fmric.or.jp/stat/index.html>

「食品製造業の生産動向」をご覧ください。

○ かまぼこ類

生産量 対前年同月比

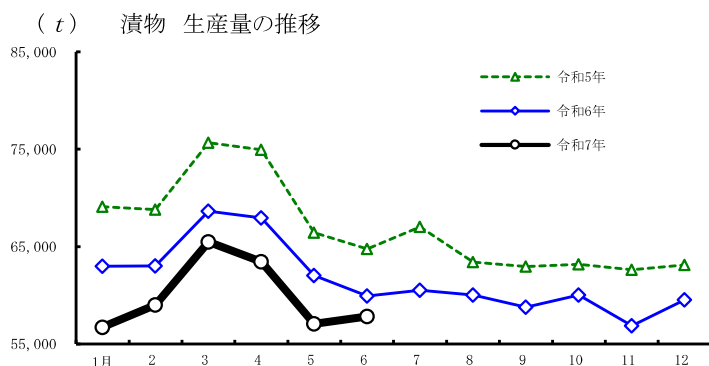
6月 2.1% 減少



○ 漬物

生産量 対前年同月比

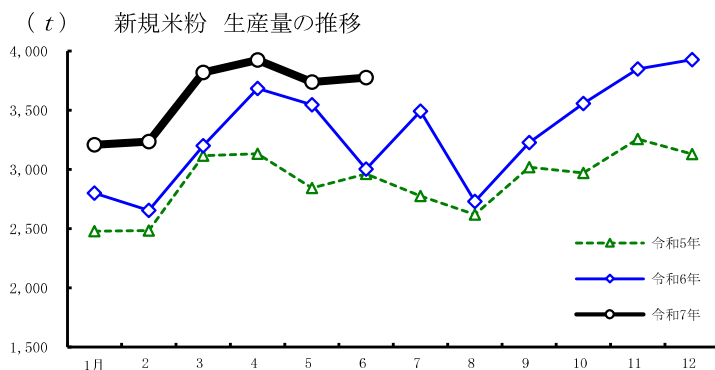
6月 3.5% 減少



○ 新規米粉

生産量 対前年同月比

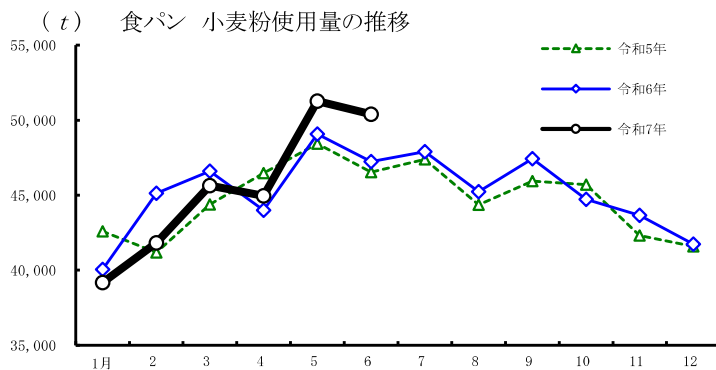
6月 25.7% 増加



○ 食パン

小麦粉使用量 対前年同月比

6月 6.7% 増加



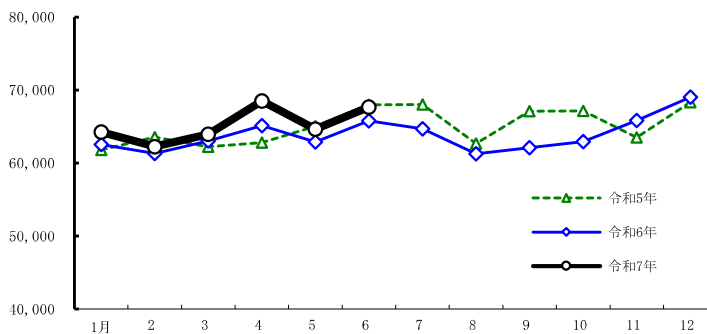
1. 加工食品の生産動向

○ 生めん類

小麦粉使用量 対前年同月比

6月 2.9% 増加

(t) 生めん類 小麦粉使用量の推移

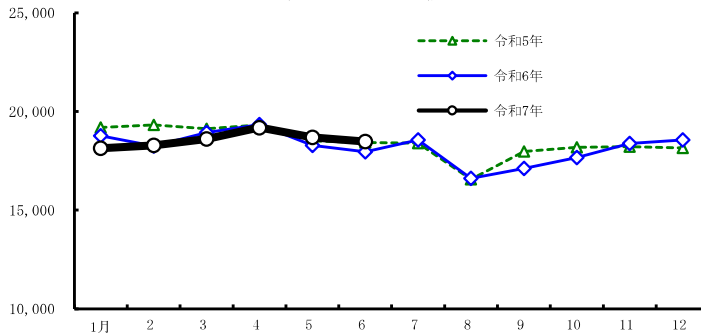


○ 即席カップめん

小麦粉使用量 対前年同月比

6月 2.9% 増加

(t) カップめん 小麦粉使用量の推移

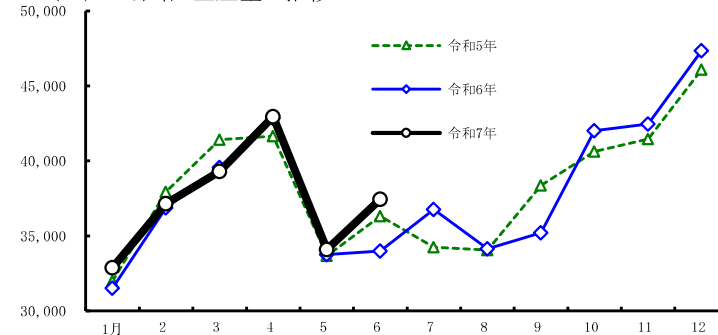


○ 味噌

生産量 対前年同月比

6月 10.1% 増加

(t) 味噌 生産量の推移

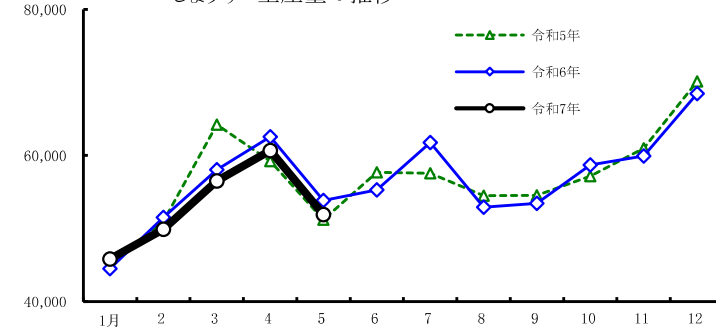


○ しょうゆ

生産量 対前年同月比

5月 3.6% 減少

(kl) しょうゆ 生産量の推移

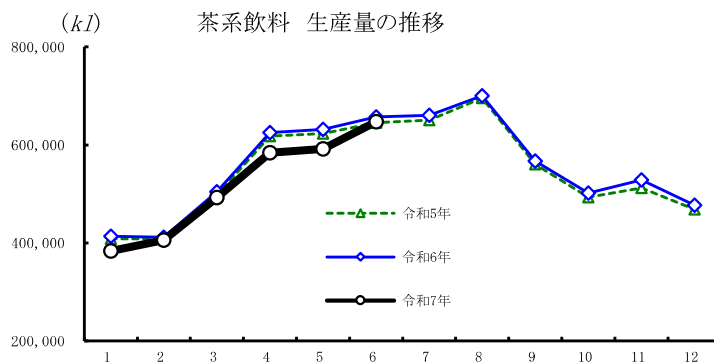


1. 加工食品の生産動向

○ 茶系飲料

生産量 対前年同月比

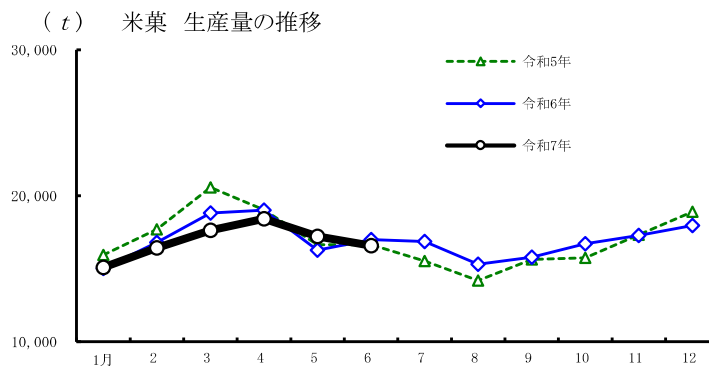
6月 1.5% 減少



○ 米菓

生産量 対前年同月比

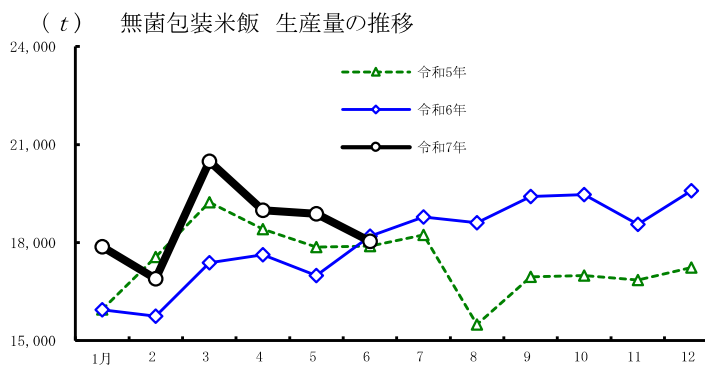
6月 2.5% 減少



○ 無菌包装米飯

生産量 対前年同月比

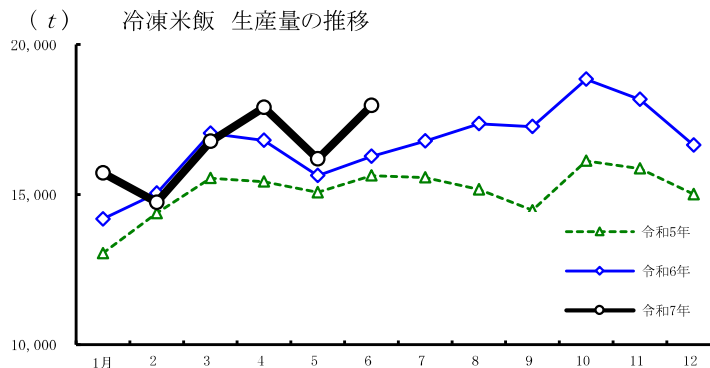
6月 0.9% 減少



○ 冷凍米飯

生産量 対前年同月比

6月 10.5% 増加



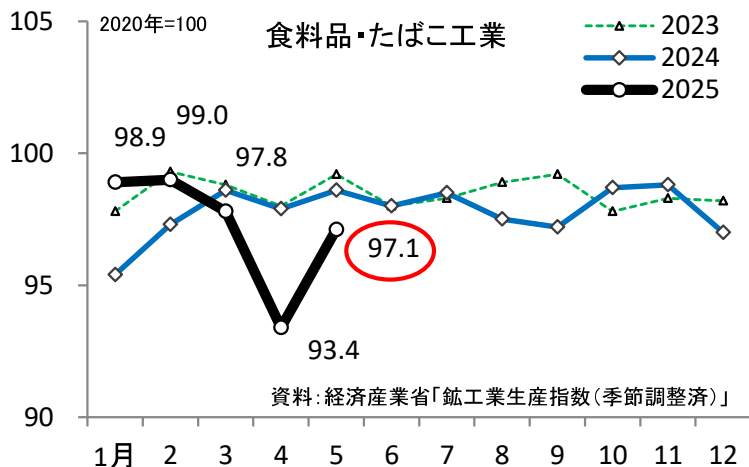
<参考> 食料品・たばこ工業の生産動向
(経済産業省「鉱工業生産指数」より)

○ 食料品・たばこ工業

生産指数 対前年同月比

5月 1.5% 低下

※経済産業省「鉱工業生産指数」は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産、出荷、在庫に係る諸活動の統計。食品製造業の月次の生産動向について、みることができます。



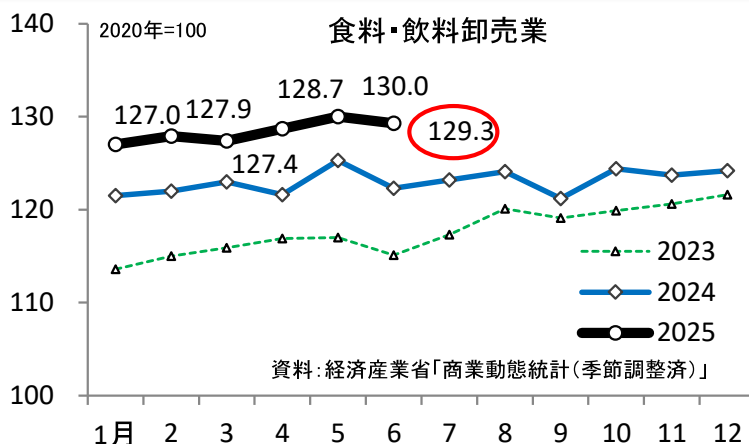
2. 食品卸売業・食品小売業

○ 食料・飲料卸売業

売上高 対前年同月比

6月 5.7% 増加

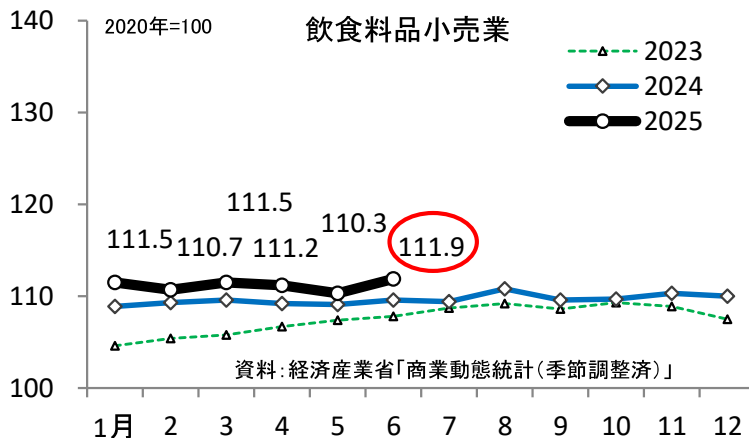
経済産業省「商業動態統計」は、全国の商業を営む事業所及び企業の販売活動の統計。具体的には、卸売業、小売業及び小売業の業態別（スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の飲食料品都等の売上高（月次速報）について、みることができます。



○ 飲食料品小売業

売上高 対前年同月比

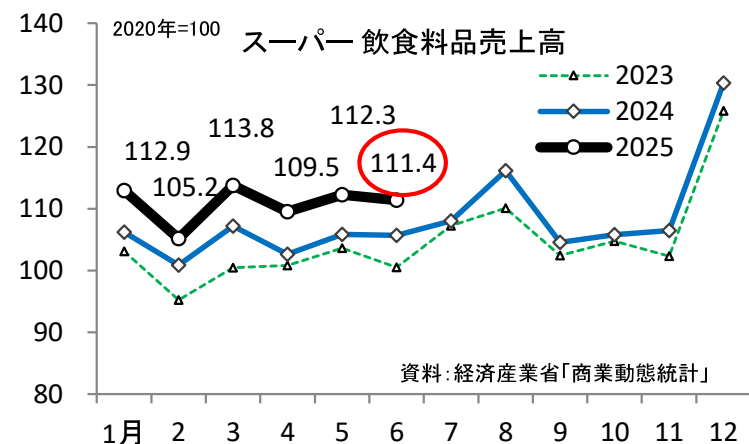
6月 2.1% 増加



○ スーパー

飲食料品売上高 対前年同月比

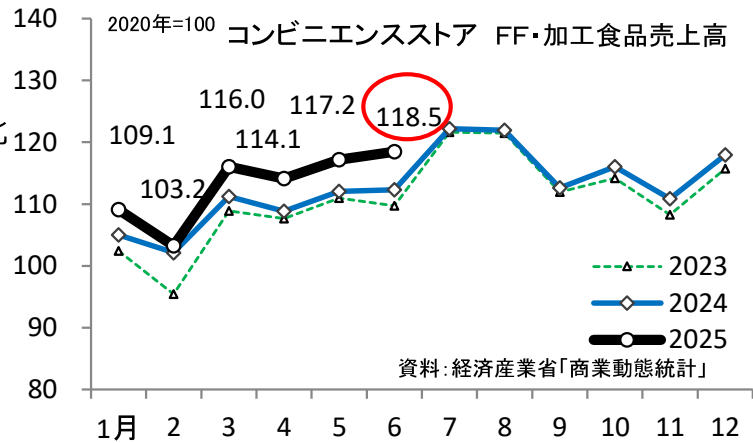
6月 5.4% 増加



2. 食品卸売業・食品小売業

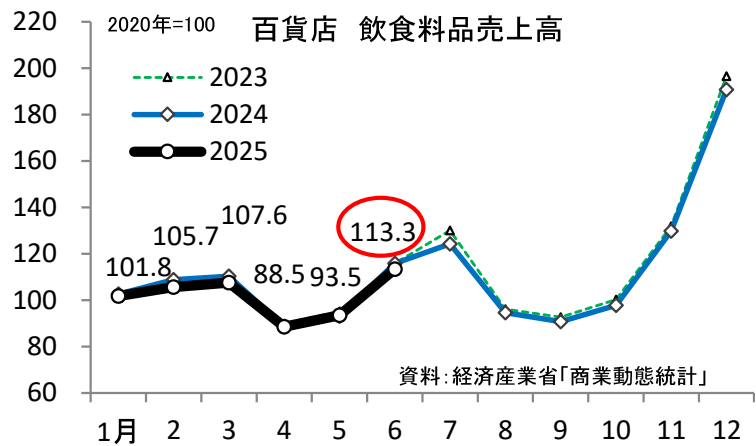
○ コンビニエンスストア

FF・加工食品売上高 対前年同月比
6月 5.5% 増加



○ 百貨店

飲食料品売上高 対前年同月比
6月 2.1% 減少

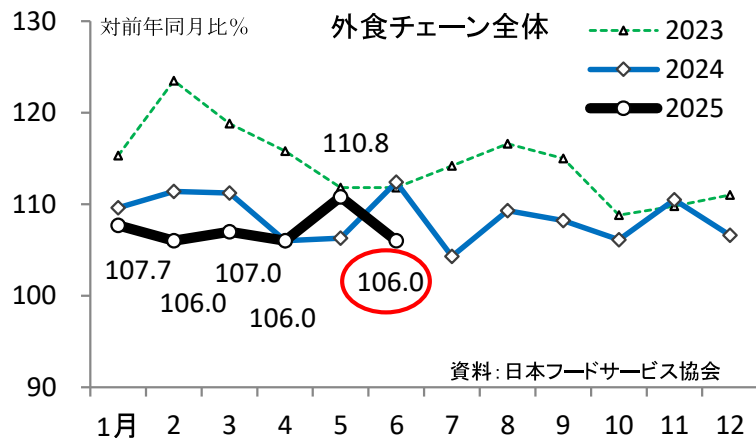


3. 外食産業

一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査」は、外食チェーン企業203社約3万9千店の売上高等についての業態別の統計。直近の売上動向がわかります。

○ 外食チェーン全体

全店売上高 対前年同月比
6月 6.0% 増加

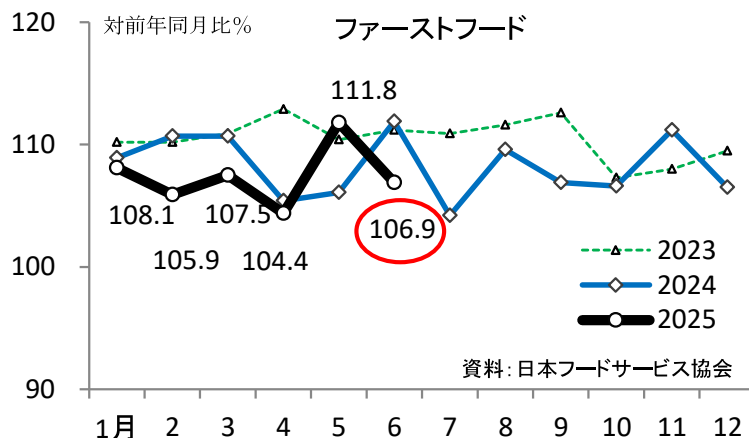


3. 外食産業

○ ファーストフード

全店売上高 対前年同月比

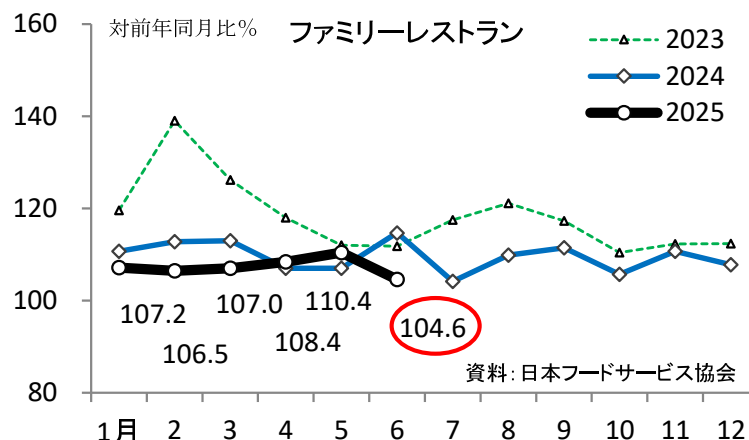
6月 6.9% 増加



○ ファミリーレストラン

全店売上高 対前年同月比

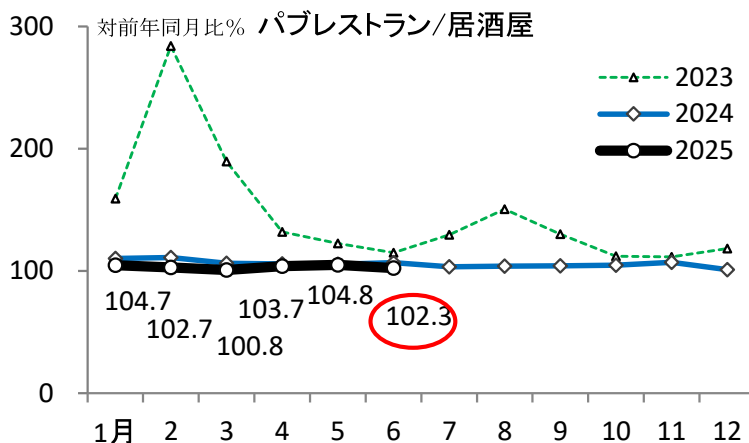
6月 4.6% 増加



○ パブレストラン/居酒屋

全店売上高 対前年同月比

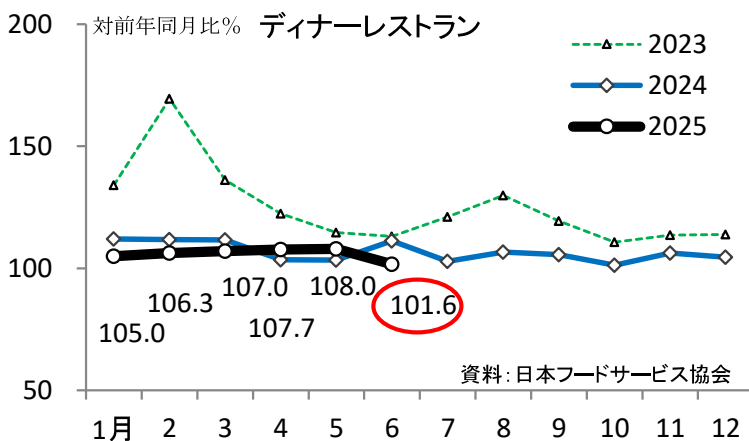
6月 2.3% 増加



○ ディナーレストラン

全店売上高 対前年同月比

6月 1.6% 増加

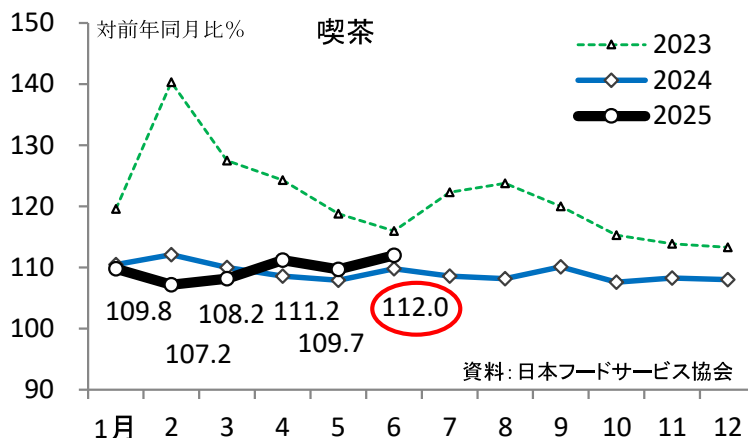


3. 外食産業

喫茶

全店売上高 対前年同月比

6月 12.0% 増加



4. 食料品の物価

企業物価指数

企業物価指数は、企業間で取引される品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点（2020年）の価格を100として、指数化したもの。

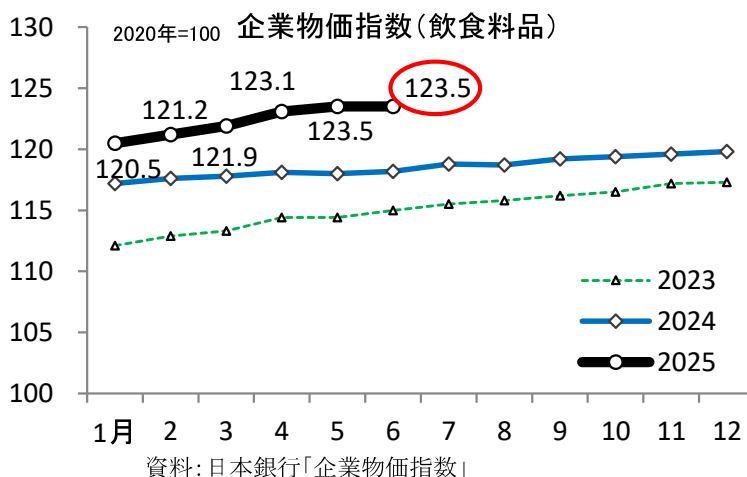
このうち、食品製造業（飲食料品）の出荷販売価格について、みることができます。

資料：日本銀行「企業物価指数」

企業物価指数 （飲食料品）

飲食料品 対前年同月比

6月 4.5% 上昇



消費者物価指数

消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するもの。

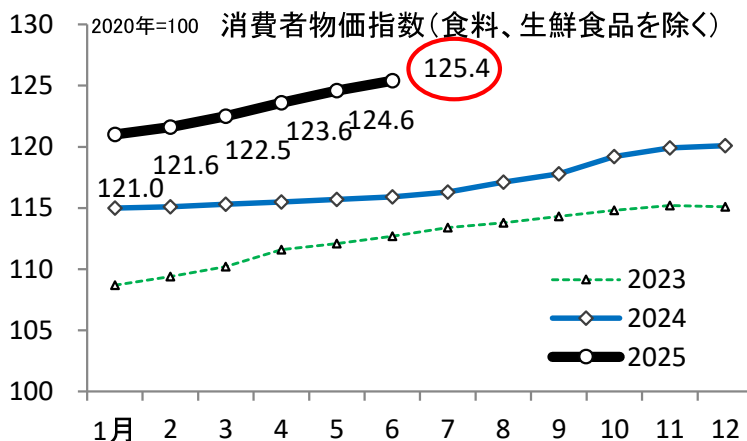
このうち、食料（生鮮食品を除く）について、みることができます。

資料：総務省「消費者物価指数」

消費者物価指数 （食料（生鮮食品除く））

食料 対前年同月比

6月 8.2% 上昇

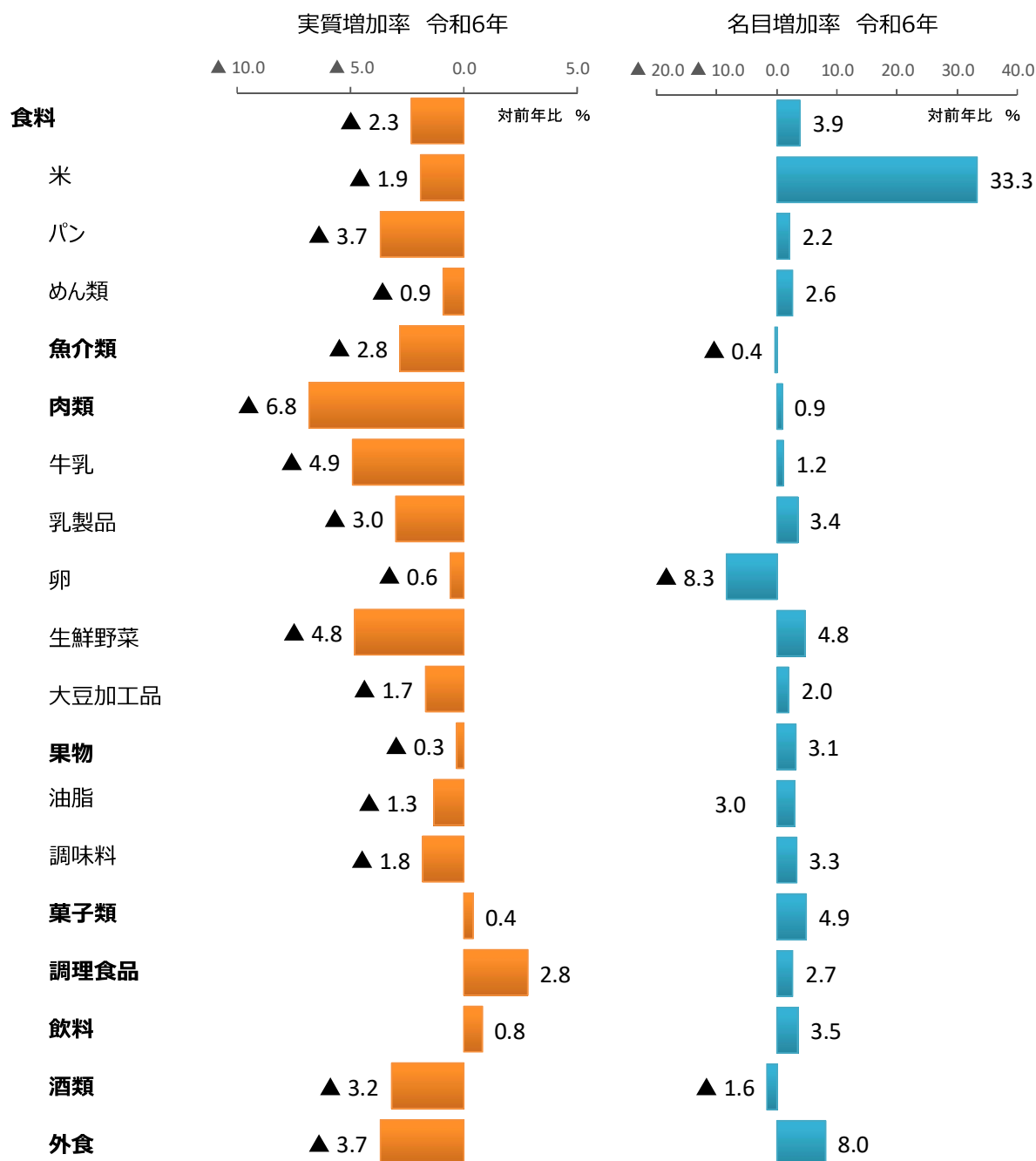


令和6年の家計調査における食料支出額の実質増加率は対前年比▲2.3%とわずかに低下

総務省「家計調査」から、令和6年の食料・主な品目の支出額増加率についてみることにしたい。食料全体の支出額は対前年比3.9%とやや増加となったが、この名目増加率から物価の変動の影響を取り除いた実質増加率は同▲2.3%とわずかな低下となった。食料の支出額が増加したものの、物価の上昇の影響が大きかったことがうかがえる。

主な品目別についてみると、特に実質増加率で減少幅が大きかったのは、肉類、牛乳、生鮮野菜、パン、外食、乳製品、魚介類等の順となっている。

図1 家計調査における食料・主な品目の支出額増加率



資料: 総務省「家計調査(二人以上世帯・全国)」

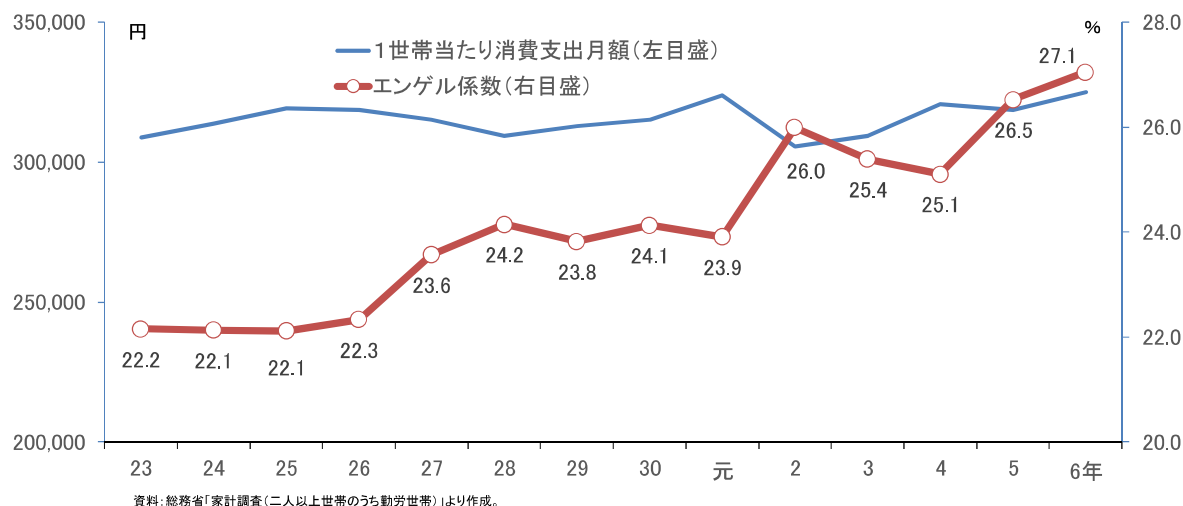
注: 太字は大分類・中分類

注: 実質増減率 = $((100 + \text{名目増減率}) \div (100 + \text{各項目に対応する消費者物価指数の変化率}) - 1) \times 100$

令和6年の勤労者世帯の食料支出額は対前年比4.0%増加、エンゲル係数は27.1%で上昇

勤労者世帯における令和6年の月平均消費支出額は、総務省「家計調査」によれば、32万5千円で対前年比2.0%とわずかに増加となった。うち、食料支出額は8万8千円で対前年比4.0%と消費支出額の伸びを上回った。この結果、令和6年の勤労世帯におけるエンゲル係数は27.1%で、対前年比0.5ポイント高くなっている。エンゲル係数は近年、上昇傾向で推移しており、特に令和4年対比では2.0ポイント高く、食料の消費者物価上昇が要因とみられる。

図2 家計調査からみた食料支出額とエンゲル係数の推移



令和6年の1世帯当たり食料支出額構成比は、対前年比で外食が上昇し、外食以外は低下

令和6年の1世帯・1カ月当たり食料支出額の構成比は、総務省「家計調査」によれば、生鮮品（穀類含む）が28.1%、加工食品が29.7%、調理食品が14.5%、飲料が6.2%、酒類が4.2%、外食が17.4%であった。対前年比で外食が回復しつつあることから、外食以外は低下がみられる。令和元年比でみると、調理食品が年々拡大し1.2ポイントの上昇となっている。また、生鮮品はコロナ禍で上昇したものの、令和元年対比で▲0.6ポイント低下している。一方、外食は▲0.9ポイント低下し、コロナ禍前の令和元年度の水準に回復していない。

図3 家計消費における食料品・外食支出額構成比の推移

